

1. 授業のねらい・概要

原価計算は、企業の生産活動を測定対象とする計算技法である。この技法により提供されるコスト情報は、財務諸表を作成するための基礎的データに用いられるだけでなく、コスト管理など企業の経営管理に対しても用いられる。

したがって、原価計算は現代の企業経営に対して極めて重要な役割を果たしているといえる。

本講義では、原価計算を理解するうえで、必要な基本的な用語の説明を行う。それとともに、製品原価の基礎的な計算手続きについての習得を行う。

2. 授業の進め方

各計算技法の目的、計算方法および具体的な適用企業などの説明を行う。さらに、学生自身にそれを十分理解させるために練習問題を数回行わせ習得させる。学生の理解度に応じて異なるが、1つの原価計算技法の習得に3~4回の授業を割り当てる予定である。

3. 授業計画

1. 原価計算概説	9. 個別原価計算（実際）
2. 原価計算の目的	10. 個別原価計算（予定）
3. 原価概念	11. 単純総合原価計算
4. 原価計算制度	12. 工程別総合原価計算
5. 費目別計算（材料費、労務費）	13. 組別総合原価計算
6. 費目別計算（経費）	14. 等級別総合原価計算
7. 部門別計算（実際）	15. 連製品の原価計算
8. 部門別計算（予定）	

4. 到達目標

財務諸表の作成に必要な原価計算の基礎的な知識を習得する。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

事前にテキストを読んでおくこと。授業後において練習問題の復習を行っておくこと。

6. 成績評価の方法・基準

授業への参加意欲を40%、学期末試験を60%の割合で評価を行う。

7. テキスト・参考文献

山田庫平他『現代原価・管理会計の基礎』東京経済情報出版

8. 受講上の留意事項

なし